

レジメンcode:	C16-33	備考
適応がん種:	胃癌	
レジメン名:	Zolbetuximab+カペシタбин	
間隔:	3週間	

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	ビロイ	600	mg/m <sup>2</sup>	点滴[*1]	d1
CAP	カペシタбин(ゼローダ)	[*2]	mg/m <sup>2</sup>	内服(朝夕食後)	d1夕~d15朝

\*臨床試験では、オキサリプラチンの投与は **最大8回まで** とされ、その後 C16-33:Zolbetuximab+カペシタбинを疾患進行又は許容できない毒性まで継続した

\***オランザピンが治療前日から服用(糖尿病患者は除く)**となるため、あらかじめ処方が必要です

\*入院化療時、恶心嘔吐出現時の メトクロラミド注 1A の医師指示が必要です

## [内服]

day0~4(5日間)

1) オランザピン 5 mg/日

内服	夕食後	<b>ビロイ投与前日から服用</b>
----	-----	--------------------

\* 糖尿病禁忌

day2~4

1) デカドロン 8 mg/日

内服	朝食後
----	-----

## [注射]

day1【ケモセーフ使用】

1) アロカリス 235mg 1 V

ファモチジン 20mg 1 A

デキサート 6.6mg 1 V

デキサート 3.3mg 1 A

パロノセトロン 0.75mg 1 V

ポララミン 5mg 1 A

生食 50ml 1 本

主管①	点滴	30分
-----	----	-----

2) 生食 50ml 1 本

主管②	点滴	15 分
-----	----	------

3) 生食 100ml 1 本

►側管① 点滴 **ビロイを中断した場合のルートキープ用**

4) ビロイ 600 mg/m<sup>2</sup> 1Vあたり注射用水5mlで溶解

注射用水 100ml 1 本 12時間以内に投与終了すること

生食 250ml 1 本 12時間を超えた場合は残液破棄

インラインフィルター必須

主管③	点滴	投与速度は別表[*1]参照
-----	----	---------------

5) 生食

50ml

1 本

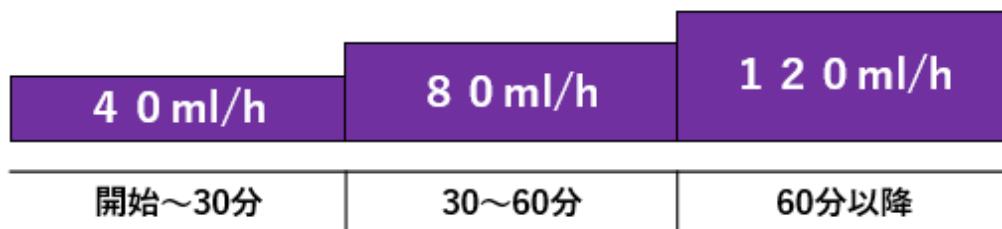
フラッシュ

〈所要時間 約4時間30分〉

[\*1]

## 恶心・嘔吐に対する投与速度のマネージメント

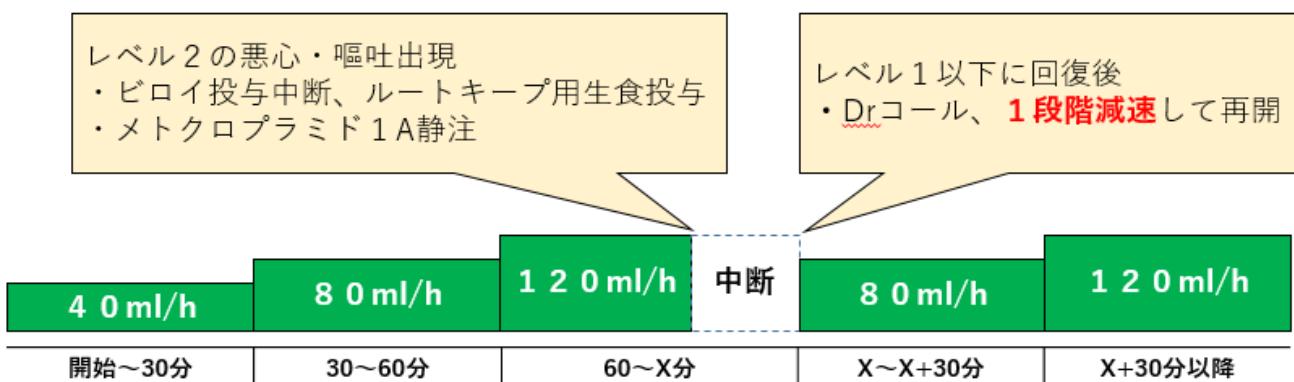
### 恶心・嘔吐 レベル1以下



\* 悪心、嘔吐 レベル2出現時

- ①ビロイの投与を中断。ルートキープ用の生食を投与しメトクロプラミド1A 静注。
- ②レベル1以下に回復後、医師へ再開の指示を確認し、**症状出現の1段階前の速度から再開する。**

### 恶心・嘔吐 レベル2出現時 (中断例)



	レベル1	レベル2
悪心	吐き気はあるけど食べられそう	吐き気があって食べられない
嘔吐	なし	あり

大切なのは患者さんの感覚

「中断希望」や「症状でつらい状態」→レベル2と判断

day1夕～day15朝

1) カペシタビン(ゼローダ) [\*2] mg/m<sup>2</sup>

内服 朝夕食後

[\*2]

体表面積	投与量
1. 36m <sup>2</sup> 未満	1,200mg(4錠)/回 【2,400mg(8錠)/日】
1. 36m <sup>2</sup> ～1. 66m <sup>2</sup> 未満	1,500mg(5錠)/回 【3,000mg(10錠)/日】
1. 66m <sup>2</sup> ～1. 96m <sup>2</sup> 未満	1,800mg(6錠)/回 【3,600mg(12錠)/日】
1. 96m <sup>2</sup> 以上	2,100mg(7錠)/回 【4,200mg(14錠)/日】

### 【文献】

国際共同第Ⅲ相試験【(GLOW試験) Nat Med.2023;29(8):2133–2141 (PMID:37524953)】

### 【適応】

CLDN18.2陽性かつHER2陰性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌

### 【ビロイ】

\*希釈後、室温で12時間以内に投与を完了すること。また2～8°Cで24時間以内に使用すること。  
12時間を超えた場合は、残液を破棄すること。

\*インラインフィルター(0.2 μ m)を使用する。